

【はじめに】

質問に入ります前に、平成 28 年度県政に対する「思い」について述べさせていただきます。

平成 28 年度の私自身のキーワードと云いますか、県政に対する「思い」は「進める 進(しん)」という文字であります。みんなで協議をし、議論を行い決める。そして 1 歩でも 2 歩でも前へ進める。

そのような「思い」で平成 28 年度 3 月定例議会の議案、予算を見させていただきました。県政の大きな課題に・・・

- (一)佐賀空港の自衛隊使用の要請
- (一)玄海原子力発電所の再稼働の問題
- (一)九州新幹線西九州ルート(フリーゲージトレイン)の問題
- (一)有明海再生の問題
- (一)城原川ダムの問題

それぞれの課題について政治の判断・決断が求められる時が来ると思います。その時、政治に係っている者として(それは知事だけでなく、県議会議員も)自らの責任で決断して前へ「進める」時が訪れると考えます。

その時の心構えと云いますか、姿勢と云いますか、考えていた時に、石原慎太郎氏の本で「天才」という本に出会いました。その中に、田中角栄氏が 44 歳で大蔵大臣に就任した時の言葉がありました。

「私が田中角栄だ。私の学歴は諸君と大分違って小学校高等科卒業だ。諸君は日本中の秀才の代表であり、財政金融の専門家ぞろいだ。私は素人だがトゲの多い門松を沢山くぐってきていささか仕事のコツを知っている。これから一緒に仕事をするには互いによく知り合うことが大切だ。我と思わん者は誰でも大臣室に来てほしい。何でもいってくれ。一々上司の許可を得る必要はない。出来ることはやる。出来ないことはやらない。しかしすべての責任はこの俺が背負うから。以上だ」

と書いてございました。皆、意見を言ってくれ、意見を聞く・・・ということもですが、最後の「すべての責任はこの俺が負うから」というところであります。

知事も県議会も責任を負って「決断」しなければならないと思います。

課題の最初に申し上げた、佐賀空港の問題であります。私は、日本の安全は佐賀県の安全！日本人の危機は佐賀県民の危機！と考えます。

佐賀県民の誇りを失いたくありません！！

ということを上申し上げまして質問に入ります。